ふるさと経済 ECONOMY

ファルコ 侵入者検知システム

クオード・インテック

（長崎市籠町）

目指せオンリーワン

CP解析で監視拡大

駐車違反や水位にも適用を

子どもたちを狙った凶悪犯罪が絶えない時代。児童や生徒が安心して通える「地域に開かれた学校」を実現するためには、教職員や地域による防犯体制に加え、侵入者を早期に発見するシステムの構築も欠かせない。

同社が開発した監視システム「ファルコ」は、名前の通り「タカ」の目を持っている。人が視覚情報を脳で判断するように、監視カメラの画像をコンピューターが解析して侵入者を検知する。従来の監視システムには画像との違いを検出する仕組みで、監視対象エリアが固定化され、誤作動を避けられないなど欠点があった」と解説する。

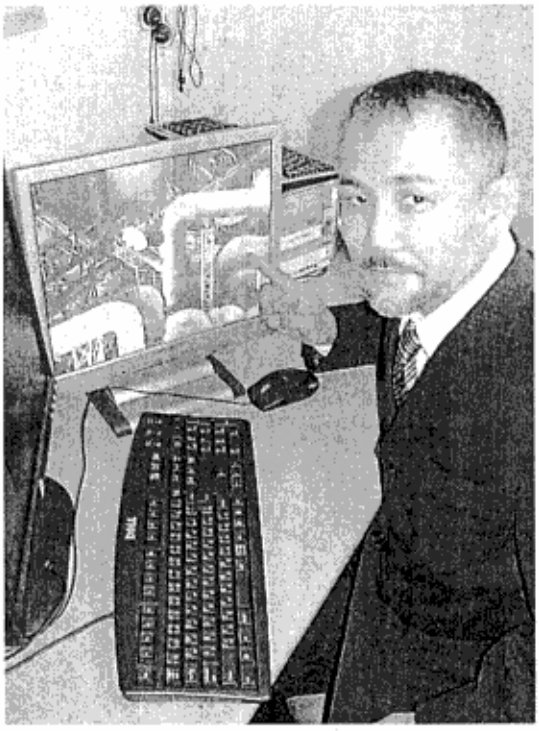
同社が開発したファルコの画像識別技術は、監視エリアを広範囲に設定できるのが特徴。フェンスを乗り越える動作など侵入者を検出する複数条件を登録することで、エリア内を横切る小動物や通行人らの動きを除外し、誤作動を防ぐ。「目視に頼っていた従来の監視方法を自動化した」

技術開発を主に手掛ける森田正人専務㊧とタッグを組み、吉田社長が商品企画や営業を担う。監視カメラや解析ソフトウエアなどシステム一式で約百万円を見込み、年内発売を予定しているが、煙やガスなど気体まで検知できる独自の技術が買われ、既に県外の大型プラントで有毒ガス監視にいち早く採用された。

「さまざまな販売ルートで全国に広げたい。駐車違反や河川の水位監視などにも適用を拡大していく」と吉田社長は意気込む。情報技術（IT）業界の黎明（れいめい）期から、第一線を駆け抜けてきた自負がある。Uターン組でもある吉田社長は「長崎はIT企業の受け皿がまだ少ない。画像識別技術で、全国から人材を集める会社にしたい」と夢を語る。

（報道部・吉岡俊治）

＝月1回掲載します＝



「トップレベルの技術で『長崎にクオードあり』と言われるようになりたい」と話す吉田社長＝長崎市籠町、クオード・インテック

有限会社設立は2005年3月。資本金500万円。05年8月末の売上高は約1000万円。社員は社長と専務の2人。社名の「Quade Intec」は「Quality（品質・上質）」「Adept（名人）」と「Technological Innovation（技術革新）」の頭文字を合わせた造語。

長崎ソフトウエアセンター

国の人材高度集積地